

「自律性支援」と「構造の提供」に着目した 学習意欲を高める中学校理科授業モデルの設計とその有効性の検討（要旨）

教育実践力行動化コース 17AD006 齊藤 祐貴

【指導教員】 小倉 康 上園 竜之介 馬場 久志

【キーワード】 学習意欲 自己決定理論 構造の提供

自律性支援 授業モデル

1. 研究の背景

2015年の国際数学・理科教育動向(TIMSS)調査の結果から日本の中学校2年生の理科学習に対する意欲等について課題が指摘されている。そこで意欲を育む中学校理科授業の検討が必要であると考えた。

動機づけの心理学の代表的な理論に Deci&Ryan の自己決定理論(2000)がある。自己決定理論によると人は、①有能さへの欲求②自律性への欲求③関係性への欲求をもっており、これらの欲求が同時に満たされるような条件のもとで人は意欲的になっていくという。では、意欲的な姿とはどのような姿なのだろうか。本研究では「意欲」を鹿毛(2013)を参考に行動的側面、感情的側面、認知的側面の3側面から捉え、行動的側面の意欲が高い状態を「夢中になっている状態」感情的側面の意欲が高い状態を「楽しさを感じている状態」認知的側面の意欲が高い状態を「目的を意識しながら取り組んでいる状態」とする。また鹿毛(2013)は意欲の高い状態は「質の高い学び」を実現するとともに社会的、認知的、人格的な発達にポジティブな影響をもたらす心理状態であり、授業で意欲が高い状態を繰り返し経験することでポジティブな学習態度が形成されると述べている。

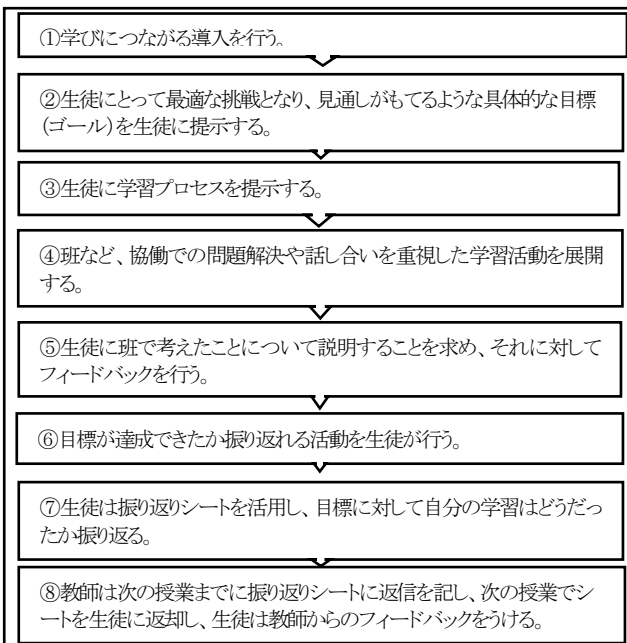
Reeve(2009)は自己決定理論の3つ心理的欲求を満たすような社会的文脈の要因として、構造を提供すること、自律性支援、関わり合いをあげ、これらが基本的な3つの心理的欲求を充足するために必要であり、各欲求が満たされることにより動機づけや適応が促されるとしている。「関わり合い」は「暖かさ」「ケア」「相互の関心」などの質を意味しており、本研究では意欲を高める中学校理科授業を工夫する手立てとして「構造の提供」と「自律性支援」に着目する。

ここで「構造の提供」は「学習者に学習構造を見通させること、及び学習過程や成果についてフィードバックを与えるような機能をもつものを教師が提供すること」、「自律性支援」は「学習者の行動をコントロールしようとしたり強制したりするのではなく学習者の自律性を支援しようとする心情や行動」と定義する。

2. 研究の目的

先行研究より「構造の提供」と「自律性支援」を重視した授業は生徒の意欲を高めるのに有効であると考えられる。そこで本研究では、「自律性支援」と「構造の提供」を重視した中学校理科の授業モデルを設計(3章、図1)し、その授業モデルを基に授業を計画、実践することが生徒の学習意欲の向上に有効であるか、中学生を対象とした授業実践を通して検討することを目的とする。

3. 授業モデルの設計(図.1)



(図.1 学習意欲を高めることをねらいとして設計した授業モデル)

4. 授業実践を通しての有効性の検討

中学校2年理科「化学変化と原子・分子(化学反応の体積比)」の内容で、上記の設計した授業モデルを基に1時間の授業(指導案)を計画し、実地研究Ⅱの実習の中で埼玉県内公立A中学校第2学年×3クラス(計85名)に対して2018年7月に授業を実践した。また、授業後アンケートを行い授業モデルの有効性を検討した。結果、設計した授業モデルを基に計画し、実践した授業は生徒の意欲を高めるのに有効であるという示唆が得られた。(表1 アンケートの結果の一部)

質問項目	肯定割合
授業で楽しさを感じましたか？(意欲の感情的側面)	82.4%
授業で夢中になっていたと思いますか？(意欲の行動的側面)	82.1%
授業は目的を意識しながら取り組むことができましたか？(意欲の認知的側面)	83.5%

5. 主な引用参考文献

- ・鹿毛雅治(2013)「学習意欲の理論:動機づけの教育心理学」金子書房
- ・Reeve,J.(2009). *Understanding motivation and emotion (5th Ed.)*. Hoboken, NJ: John Wiley&Sons
- ・Deci,E.L.,&Ryan,R.M.(2000). *The “what” and “why” of goal pursuits: Human needs and the self-determination of behavior*. *Psychological Inquiry*, 11(4), 227-268.